

京都大学教育研究振興財団助成事業 成 果 報 告 書

平成30年3月31日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団
会 長 辻 井 昭 雄 様

所 属 部 局 高大接続・入試センター

職 名 副センター長

氏 名 有 賀 哲 也

助成の種類	平成29年度 ・ 社会連携助成			
事業名	体験型学習講座ELCAS法学部			
実施期間	平成29年 4月 1日 ～ 平成30年 3月31日			
実施場所	京都大学大学院法学研究科(京都市左京区吉田本町)			
参加者	総数	内 訳		
	301名(のべ)	高校生 282名, 教職員及び指導補助 19 名		
成果の概要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有(募集パンフレット)			
会計報告	事業に要した経費総額	1,632,442円		
	うち当財団からの助成額	1,000,000円		
	その他の資金の出所	学内経費(高大接続・入試センター予算)		
	経費の内訳と助成金の使途について			
		費 目	金 額 (円)	財団助成充当額 (円)
		物品費	358,528	306,086
		謝 金	48,740	48,740
		人件費	480,000	0
		その他	745,174	645,174
		合 計	1,632,442	1,000,000
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。)			

成果の概要／ELCAS

「体験型学習講座ELCAS法学部」は、本助成事業を活用し、高校1年生および2年生を対象に選抜を行い、受講生に対して講義や演習を行った。

1) 広報

チラシ、パンフレットを作成し、関西圏を中心に全国の高等学校に配布した。また、ホームページおよび申込みサイトの構築を行い、プログラムの内容の紹介や選抜結果の掲載を行った。

2) 募集・選抜

定員を20名とし、6月14日から7月5日にかけて募集を行った。

①第一次選抜（論述試験）：平成29年7月16日（日）

法経済学部本館において、法学研究科の潮見佳男教授による研究講演と講演内容に沿った論述試験を行った。

②第二次選抜（面接試験）：平成29年8月6日（日）

法経済学部北館において、第一次選抜を通過した高校生に対し、面接試験を行った。

選抜された23名が、京都大学の講義室や演習室などで、以下、3)の日程で講義・演習を受講した。

3) 講義・演習・成果発表会

（講義）10月21日（土）15:00-17:00

中西 寛 教授 「政治学で考える日本の安全保障」

概要：安全保障は国会やメディアでも大きく採り上げられる日本政治にとって重要な争点です。安全保障を巡って時には大きく意見が分かれ、激しい政治対立が生じることが日本政治の一つの特徴です。こうした対立は価値観の相違によるものもありますが、それ以上に議論の前提となる知識が共有されていないために生じることが日本では多いようです。特に日本の安全保障に関しては、複雑な背景が存在し、それについて理解が不足していることが議論を混乱させているのです。政治学の分野では安全保障に関して多様な角度から分析を積み重ねてきました。本講義では、思想、歴史、理論といった様々なアプローチの知見を踏まえながら、日本の安全保障を客観的に理解する考え方を説明しました。

（演習）11月4日・11月11日・12月2日（いずれも土曜日 15:00-18:00）

稲谷 龍彦 准教授 「刑事模擬裁判演習」

概要：刑事法という言葉聞いて、何を思い浮かべますか？人が殺されたとき、

あるいは大きな事故が起きたとき、ニュース番組は事件を大々的に報道します。よく聞いてみると、「警察は、X 罪の疑いで A を逮捕し、事情を聞いています」のようなフレーズが流れてくることに気付くでしょう。犯罪と刑罰に係る法を取扱う刑事法は、こうした報道内容と密接に関連しており、したがって日々の生活と深く関係する法です。刑事模擬裁判に当事者として参加することを通じて、刑事法を構成する基本原理について共に学び、そのあり方について深く考えてもらうことを目的としてこの演習を行いました。

12 月 16 日・平成 30 年 1 月 6 日・1 月 20 日（いずれも土曜日 15:00-18:00）

船越 資晶 教授 「法の支配とはどのようなものか」

概要：法社会学は、法の現実のあり方をさまざまな角度から記述・分析する学問です。この演習では、「法の支配」とはどのようなものかについて、法社会学の古典 Philippe Nonet & Philip Selznick, *Law & Society in Transition: Toward Responsive Law*（初版 1978 年刊）を講読しながら、一緒に考えてみました。本書は、法と政治の分離に象徴される古典的な「法の支配」が衰退し、法と政治が融合する新しい形態の「法の支配」が成立しつつあることを説いています。演習への参加を通じて、理論的に突き詰めて考察することの醍醐味を味わってもらうことをめざしました。

（成果発表会）平成 30 年 2 月 3 日

成果発表会では、ELCAS 法学部で演習を受講して考えたこと、感想を口頭で発表し、発表終了後、演習担当教員より講評を行った。また、修了証を授与した。その他、より充実したプログラムの改善を目的として、開始時アンケート及び終了時アンケートを実施した。